

校長室より

令和4年9月27日(火)

「手をさしのべる～その1～」



今まで、何か困った経験はありませんか。

うまく自分で解決できたこともあったでしょう。でも、なかなかうまくいかずに苦しんでいたとき、助けてもらったという人も多いはず。今回は、私が困っていたときに手をさしのべてくれた人の話をします。

実は、今から一年ほど前、私が田んぼをトラクターで耕していたときのことです。けっこういい感じで作業が進んでいたのですが、途中でトラクターの動きがおかしくなってしまう、耕せなくなってしまうんです。自分なりにあちこち触ってみたのですが、トラクターは言うことを聞いてくれません。仕方なく、なじみの農機具屋さんに電話をして修理を依頼しました。すると電話口で「先生、ちょっと待ってての。今から行くわ。」と明るい返事が。なんと電話の相手は、私の教え子だったんです。ほどなく、彼が到着し、ものの数分もしないうちに「先生、直ったぞ。」の声。私は「遠いところまでありがとう。助かったわ。」と言うと、彼は「先生、昔お世話になったから。」などとかっこいいことを言うんです。彼は帰り際に「またなんかあったら、電話してな。困ったときはお互いさまや。」と言って帰って行きました。私はちょっとウルっとしながらずっと彼を見送りました。

「困ったときはお互いさま」

「自分がしてほしいことを相手にしてあげよう」

これらは、私が小さいときに誰かから教えてもらった言葉です。現在、特に対面でのコミュニケーションが少なくなっている時だからこそ、このような気持ちを大事にしていきたいものです。

